

浜田市の中山間地域を中心に米軍機とみられる低空飛行が依然続き、市内全域において、日々、爆音や事故等の不安に悩まされています。自宅で病気療養中や育児中の方、乳児や子供、高齢者にとって、突然聞こえてくる轟音は、極度のストレスを受け心身や生活に悪影響を与えて続けています。昼夜を問わず続く飛行音は、社会的弱者の皆さんはもとより、一般住民の皆さんの我慢の限界をはるかに超え、とても容認できる状況にはありません。

先般の当市旭町の「あさひ認定こども園」上空では、6月27日に開所以来の一番大きな飛行音により、多くの子どもたちを恐怖させたのに続き、8月2日にも長時間にわたって轟音が鳴り響き、多数の子供たちが耳をふさぎ、怖いと震えるなか、職員が大丈夫となだめ耐え続けております。当日、当市旭支所屋上に設置している騒音測定器は、70dB以上を35回も観測し、最大測定値は86dBを記録しています。その他、屋内にいても飛行音がうるさく会話もできない状況が繰り返し続き、「事故が起きなければ飛行を止めないのか」など多くの苦情が寄せられている状況です。

このような状況の中、墜落事故が多発し飛行の安全性に疑問の多い軍用機「オスプレイ」が当基地に配備され、多くの市民が不安と恐怖を感じており、到底見過すことはできません。

これまでも、本市は市民の不安の解消と騒音防止の観点から、低空飛行訓練中止を繰り返し要請してまいりましたが、苦情の時間・場所にて、米軍機が訓練空域を使用していたことは認めるものの、「同米軍機は、訓練時において、合同委員会合意の所定の規則全般に従って訓練を実施していた。」と全く誠意がない対応が続いております。

貴職におかれましては、自国の学校や福祉施設、医療機関上空を同様に飛行された場合を想像し、日々繰り返される低空飛行訓練によって、激しい騒音被害が平穏な生活を乱している実情と、米軍機による事故に対する不安の中で生活しているという市民の心情を自分たちのこととして考え、低空飛行訓練を中止するよう強く要請します。

2012年8月27日

アメリカ合衆国

海兵隊 岩国航空基地司令官

ジェームス・C・スチュワート大佐 様

日本国 島根県浜田市長 宇津 徹 男